

高等学校 第2学年 家庭基礎



自助・互助等の視点から、減災に対する様々な学びを通じて、他者への支援などについて考察し、クラウドで体系的に整理しながら共有することで生徒同士の議論を深めた。

高等学校 第2学年 家庭基礎 「共に生きる」

■単元の目標

家庭と地域との関わりを理解し、高齢者や障害のある人々を含む多様な人々が支え合う意義を学ぶことを通して地域社会の一員としての自覚を持ち、問題を見つけ、解決策を考え、実践しながら論理的に表現する力を養う。また、共生社会と福祉の課題解決に主体的に取り組み、振り返りながら改善し、地域社会への参画を通じて生活の充実向上を目指す。

■単元の概要

高校生として、家庭や地域の充実向上に向けて、多様な人々が共に支え合うことの重要性について、自助・互助・共助・公助の視点から考え、地域社会への主体的な参画の重要性についてまとめる。

■単元の指導計画（4時間）

第1小単元 「共に支え合う社会を目指して」

- ・自助・互助・共助・公助について理解する
- ・税金や社会保険料を負担する意義を理解する
- ・社会保障制度について理解し、モデルケースに対する対応を考える
- ・共生社会の考え方について理解する
- ・身の回りにあるユニバーサルデザインの具体例を基に考察・分析する

第2小単元 「災害と社会の関わり」

- ・災害のリスクを想定するのにあたり、導入として、2019年台風15号における実体験を振り返る
- ・振り返りを基に、今後想定される災害に備えた「携帯品リスト」を作成する
- ・「一時避難所で一夜を過ごす際に自らができること」について考えることを通して高校生である自分の力を発揮することの意義について考える
- ・内閣府の「一日前プロジェクト」におけるエピソードを基に考え、減災の重要性について認識する
- ・単元全体の学習等を通して、多様な人々が支え合う地域社会への参画についての考えをまとめる

■小単元の概要

- ・家庭や地域において、多様な人々が共に支え合うことの重要性について、自助・互助・共助・公助の視点から考え、日常生活の中で起こりうる様々なモデルケースを通して社会保障制度について理解し、共生社会を目指すことの意義について考察する。
- ・誰もが暮らしやすい社会の構築に向け、高校生としてこれまでに学んだことを活かしながら、社会の一員としてどのような行動が求められているのかについて考察する。

- ・災害（2019年台風15号）における実体験をもとに、生徒達が、振り返った内容を共有するとともに、各地で頻発している災害も含め、今後発生するかもしれない災害のリスクに備え、自ら考えた携帯品リストの作成や他者への支援方法の考案などをクラウドで共有し、生徒同士の議論を交わす中で内容の改善につなげる。
- ・自助・互助・共助・公助の視点から、高齢者や子供、さらには乳幼児を持つ親の視点等を踏まえながら、さらに議論を交わし、クラス全体として改善した携行品のリストを作成する。

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している生徒の姿（第2小単元）

【学習活動の場面】

- ・今後想定される災害に備えた携行品リストの作成や、他者への支援方法の考案などをクラウドで共有し、生徒同士の議論を交わす中で内容の改善につなげる。
- ・単元全体の学習等を通じて生活の中で自助・互助等の視点から考えることについて振り返り、自分や家庭、地域の生活の充実向上に向け主体的に行動することの重要性について議論しまとめる。

【生徒の「深い学び」の姿】

災害時の最低限の携行品（8点）について、次のようにグループ及びクラスで議論を重ね結論を見いだした。

それぞれが挙げた携行品やその必要性について、はじめは、グループ内で議論を重ね、以下の8点の携行品を結論として導いた。

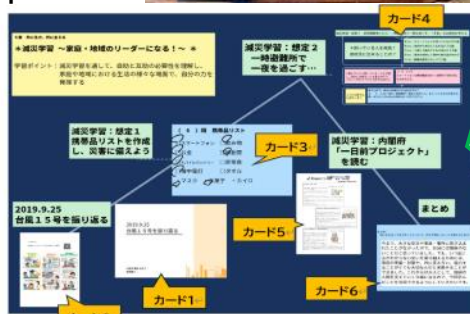
☐モバイルバッテリー ☐スマートフォン ☐お金 ☐水
☐懐中電灯 ☐U N O ☐非常食 ☐毛布

その上で、高齢者や子供、さらには乳幼児を持つ親等、様々な立場に立って考えながら、グループごとの結論をクラウドで共有し、他グループの意見も踏まえながら、さらにクラスでの議論を深めることで、クラスとしての結論を見いだした。

☐モバイルバッテリー ☐スマートフォン ☐お金
☐水 ☐懐中電灯 ☐身分証 ☐非常食
☐衛生用品（おむつ・マスク・絆創膏等）

【当該指導での「深い学び」】

単元全体を通じて、それぞれの学習場面における取組内容や、個人・グループの考えなどについてクラウドを有効に活用して共有する。また、それらに関連づけながら取組を進めることで、自助・互助等の視点から災害に対する考えを深める。さらに、高齢者や子供等の様々な立場をイメージしながらクラス全体で議論を進めることで気づきが生まれ、生徒一人一人の考えを深めることができた。こうした議論を通して、多様な人々が支え合う地域社会への参画意識を高めることにつながった。



■指導上の工夫とICTの活用

①個人の作業から、グループ、さらにクラス全体へとクラウドを活用しながら段階的に考えを共有・発展させ学びを深めていく。

*クラウドで「自分の考えを伝える」、「生徒同士で学び合う」、「新たな考えに気づく」ことを効率的に行うことで、さらに深い学びへとつながることができる。

②各取組における学びを可視化し、自らの考えを整理しながら、構造化させることでより深い学びへとつなげる。

*学びの足跡が一目で分かるシートは、生徒にとっては、自身の思考の変遷も見取ることができる。また、クラウドで共有することで他者参照も容易となり、自らの考察の改善にもつなげることができる。

【活用したソフトや機能】

□イロノート

学習指導要領や解説との関連

高等学校学習指導要領 第2章 各学科に共通する各教科 第9節 家庭 第2款 各科目

第1 家庭基礎

2 内容

A 人の一生と家族・家庭及び福祉（5）

次の(1)から(5)までの項目について，生涯を見通し主体的に生活するために，家族や地域社会の人々と協力・協働し，実践的・体験的な学習活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(5)共生社会と福祉

- ア 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会支援について理解すること。
- イ 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について考察すること。